

生命科学科

1. 教育研究上の目的

生命科学科は、生物を構成する分子と細胞、さらには生物個体について、それらの構造、機能、相互作用などの教育を通して、生命現象を深く理解する人材を育成する。研究においては、生命科学の幅広い分野の基礎及び応用研究を通して、科学の進歩と社会の発展に貢献することを目指す。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生命科学科では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「学士（理学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 生物を構成する分子と細胞、生物個体の構造、機能、相互作用などに関する知識を有し、生命現象を深く理解することができる。
2. 生命科学の基本的な知識の学習と本格的な実験を通じて、生命科学の知見と方法を様々な局面に適切に応用する力を身につけている。
3. 課題解決に必要な方策を提案・遂行する力を身につけている。

（思考・判断・表現）

4. 物事の根本を論理的・実証的に分析・考察する能力を身につけている。
5. 分析・考察の結果を総合し実地に活かす技能、考えや知識を他人に的確に伝える技術を備えている。
6. 生物学を中心とする自然科学の知識と原理に遡って自然や社会における対象の本質を分析し、実証的な調査・研究を通じて課題を解決に導くことができる。
7. 全地球的な視点に立って、科学・技術が自然環境や社会に及ぼす影響を自立的に判断できる。

（関心・意欲・態度）

8. 社会、文化、地球環境の観点から科学・科学技術の役割と責任を論じることができる。
9. 培った能力・経験・知識を活用し、世界的な視野をもって社会に貢献することができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生命科学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

(教育内容)

1. 生命科学の基本的な知識を修得させる科目として、「必修専門科目」(主に1～3年次配当)、発展的な知識を修得させる科目として、「選択専門科目」(主に2～3年次配当)を配置する。また、自然科学に関する知識や技術の向上のため、物理、化学及び数学の内容を含む科目を、必修及び選択科目として配置する。(知識・技能)
2. 分析・考察の結果を総合し実地に活かす技能、考えや知識を他人に的確に伝える技術を修得させる科目として、「生命科学演習」(3年次配当)、「生命科学輪講」(4年次配当)を配置する。(思考・判断・表現)
3. 「自分の手を動かし、自分の目で見て、自分の頭で考える」姿勢を身につけ、自ら課題を発見し、その解決に必要な方策を提案・遂行する力を修得させる科目として、「基礎科学実験」(物理、化学及び生命科学)(1年次配当)、「生命科学実験」(2～3年次配当)、「生命科学特別研究」(4年次配当)を配置する。(知識・技能/思考・判断・表現/関心・意欲・態度)
4. 幅広い教養と国際感覚を身につけ、現代社会の諸問題に対する広い視野を養成するため、人文科学・自然科学・社会科学の様々な分野や、外国語・情報処理・体育などを学ぶ、「総合基礎科目」を配置する。(知識・技能/思考・判断・表現/関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。
2. 学生の主体的学修を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。
3. 少人数教育を演習、実験等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。
4. 準備学習(予習・復習)の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。
5. 教員のオフィスアワーを設けることで、毎週特定の時間帯に、学生は自由に教員に授業内容の質問をすることができ、履修計画や就職相談など、様々な相談にきめ細かく応じる。

(教育評価)

1. 生命科学科のカリキュラムの評価は、卒業・進級判定、科目ナンバリング、GPAの活用、在学生調査、シラバス記載内容等の実態把握に基づいて総合的に行う。
2. 学生個人の教育評価は、卒業要件単位数の充足、卒業研究、卒業論文等の評価、GPAによる判定、社会と関わる諸活動の成果等の実態把握に基づいて総合的に行い、学修支援に生かす。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生命科学科では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 科学の基本となる考え方や基礎的な知識を持っている。
2. 生命科学分野についての能力や知識がある。

（思考・判断・表現）

3. 自分の頭でしっかりと物を考え、自分の目で自然や数理の世界を観察できる。
4. 幅広い自然科学の知識に加え、広い視野と柔軟な発想力を持ち、その発想を伝えることができる。

（関心・意欲・態度）

5. 自分の手を動かし、実験や計算をすることに積極的で、熱意と好奇心にあふれている。
6. 理科系の分野だけでなく、語学や国語にも力を入れ、幅広い分野に関心がある。

以 上